

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 10 月 4 日

事業所名 Aile

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5名			運営基準を満たしたスペースを設けている。	事業所の庭なども活用して訓練や活動のバリエーションを増やしていく。
	2	職員の配置数は適切である	5名			運営基準を満たした人員配置ができている。	研修受講や資格取得などを行い、質の向上を図っていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5名			分かりやすい構造化、スロープや手すりの設置など、配慮できている。	バリアフリー化に関して、今後は少しでも段差をなくすよう検討していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5名			職員会議の中でPDCAサイクルを行っている。	今後も継続して行っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5名			アンケート結果を受け入れ、改善に努めている。	スタッフと保護者の認識のズレを把握し、解消に努めていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5名			集計後、ホームページで公表していく。	集計後、ホームページで公表していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4名	1名	他事業所からのアドバイスなどを取り入れている。	第三者による外部評価は行っていないので、今後検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4名	1名		参加できる研修には積極的に参加している。	今後も、必要に応じて研修への参加を積極的に行っていく。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5名			適切なアセスメントを行い、児童発達支援管理責任者が作成している。	今後も、日々改善を行い質の向上を図っていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5名			5領域が含まれたツールを用いて、児童発達支援管理責任者が作成している。	今後も、日々改善を行い質の向上を図っていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5名			会議の中で一つのチームとして立案を行っている。	今後もチームとして支援していけるよう継続して行っていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5名			季節に合わせた活動や訓練を行っている。	他事業所の活動や訓練なども参考にしながら、質の向上を図っていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5名			平日にゆとり時間を確保できない分、学校休業日には外での活動をメインにしている。	今後も、平日に消化しきれないストレスや課題などに対して、学校休業日を用いてストレス発散や面談の機会を増やしていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5名			日々の状況に合わせて活動できるよう作成している。	身体と心の状態を把握した上で支援できるよう引き続きサポートしていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5名			業務開始時に当日利用の児童について会議を行っている。	今後も継続して、事前の会議を行っていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4名	1名		送迎終了後に当日の出来事などの振り返りを行っている。	もっと時間を確保できるよう、検討していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5名			支援記録等の記録をしっかりとできている。	今後も、支援計画に基づいた記録を行っていく。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5名			6カ月内に1回モニタリングを行い見直しをしている。	必要に応じて、不定期での見直しも行っていく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5名			ガイドラインを遵守しながら運営、支援している。	今後も定期的にガイドラインを確認しながら運営、支援していく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4名	1名		児童発達支援管理責任者だけでなく、担当スタッフが参加している。	今後も、会議に最もふさわしいスタッフの参加を促していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5名			送迎時に該当児の様子に加え、必要に応じて学校行事などの情報共有を行っている。	送迎時のトラブルはないが、今後トラブルが起きた際にスムーズに対処できるよう、学校と保護者との連携を強化していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		5名		現在、医療ケアが必要な児童がいない。	今後、医療的ケアが必要な児童を受け入れる際に連携をとれるよう努めていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3名	2名		相互理解には努めているが、把握できていない児童もいる。	職員間での認識のズレがあるため、今後はより連携を強化して相互理解を深めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		5名		開所から1年未満のため、該当児がいない。	今後は高校卒業と同時に障害福祉サービス事業所等へ移行する児童が出てくるため、しっかりと情報共有していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4名	1名		研修や部会などに参加している	今後も他事業所と連携し、助言やアドバイスを受けていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		4名	1名	検討中	インフルエンザやコロナなどの影響でなかなか受け入れが難しい状況があったので、引き続き交流する機会を作れるよう検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5名			市の協議会へ参加している。	今後も、積極的に参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5名			対面を基本とし、電話やメール、LINEなどを活用し児童の情報共有ができています。	今後も引き続き、細かい情報共有を行っていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2名	2名	1名	個別でのサポートを行っている。	今後は保護者交流会などを開催し、ペアレント・トレーニングを行っていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5名			契約時に説明を行っている。	引き続き、丁寧に説明していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5名			必要に応じて、個別での面談などで対応している。	引き続き、保護者の困り感をキャッチしてサポートしていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5名		保護者会などはまだ開催できていない。	今年度中に開催予定。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5名			LINEや電話で解決できない場合は面談の機会を設けている。	引き続き、保護者の悩みや困り感をキャッチし、必要に応じて面談等の機会を設けていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5名			毎月のお便りを発行している。	引き続き発行していく。
	35	個人情報に十分注意している	5名			個人情報漏洩の無いよう、配慮している。	今後も引き続き漏洩のないように注意していく。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5名			言葉だけでなく、絵カードや筆談を用いて対応している。	今後も、スムーズな意思疎通ができるよう配慮していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5名		交流はあるが、行事の開催、招待はできていない。	地域全体が参加できるようなイベントを検討していく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2名	3名		各マニュアルを作成し、実施している。保護者に周知が行きわたってない可能性がある。	マニュアルを定期的に見直していく。また、今後は保護者にも広く周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5名			定期的な訓練を行い、災害発生を想定した訓練ができています。	今後も引き続き、万が一に備えて訓練を行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5名			定期的に虐待防止研修を受講して事業所内で共有している。	引き続き、細かい情報共有を行っていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		5名		現時点で身体拘束の対象者(想定される児童)がいない。	身体拘束が想定される児童の受け入れの際には、しっかりと準備し計画書に記載していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5名			契約時にアレルギーの有無を確認している。	定期的にあレルギーの有無を確認していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5名			想定されるケースを作成し、共有できている。	現時点でヒヤリハットはないので、今後も未然に防げるよう対応していく。